

生徒指導だより

佐渡市立相川中学校
生徒指導部
11月20日（金）発行

○「いじめ見逃しゼロスクール集会」開催

学校生活の中で「いじめ」が発生しやすい時期は、5～6月にかけてと10～11月にかけてだというデータがあります。長期の休み（大型連休や夏休みなど）があけてしばらくたったころや学校生活に慣れてくるころに「いじめ」は起こりやすくなります。ちょうど、人間関係が定着・固定されてくる時期です。そんな中で、この時期までにうまく友達と馴染めなかった、孤立してしまった、または、定着した人間関係の中で上手くいかなくなったなどのトラブルが起こってしまうといじめに発展しやすくなります。

いじめの未然防止や解消のためには、児童生徒、教職員、保護者、地域の人々が力を合わせて、明るい学校づくりに取り組んでいくことが大切です。新潟県では、「いじめ見逃しゼロ 県民運動」を通して、学校、家庭、地域の協力の輪を広げ、県民みんなで子どもたちを見守り、いじめを見逃さないように呼びかけています。

当校でも、11月12日（木）5・6限に「相川中いじめ見逃しゼロスクール集会」を開催しました。今年度は、新潟お笑い集団 NAMARA の金子ボボさんを講師に招き、出前授業をしていただきました。「自分の命も他の人の命も大切にする」、「自分と他者は違う。自分の良いところも相手の良いところも見つけよう。」、「ないものねだりではなく、良いところ探しをしよう。」など、生徒とともに「命について」考える時間となりました。



＜いじめ見逃しゼロスクール集会の生徒の感想＞

- ・ボボさんはすごいと思った。いじめられても前向きなのがすごい。相談する友達などを作る。いじめなどがあつたらすぐに相談する。
- ・それぞれの個性があるから、他の人とは違うことがあるので、決めつけないようにして生活をしていきたいと思いました。
- ・ないものねだりより、良いところ探しや100点の人もいなければ、0点の人もないことなどを学びました。おもしろく伝えてくれたから、とてもわかりやすかった。一人一人良いところがあることを感じた。
- ・失敗しても恥ずかしがらず、次から次へと自分ができることを増やしていきたいと思った。悪口を言った本人は忘れるが、言われた相手は今後一度も忘れることができないことを改めて知った。人には個性があつて一人一人他にはないやり方や生き方があることをグループで話し合い考えた。
- ・自分の個性は大事にして、他人のことを否定しないような人になりたいと思った。
- ・自分らしく生きるの大切な事なんだなと思った。すごく分かりやすくて、いじめのことについても良く知ることができた。
- ・自分のクラスも授業中にうるさくなる。そんなときにうるさい人を少し嫌いになったりもするけど、1回その人としゃべったりするとその人の良いところ分かるのかなーって思った。面白さも含まれていて自分自身は飽きなかった。なにより今までで一番、頭の中に良く残った。
- ・自分が人と違っていても嫌だと思ふんじゃなくて、人と違うところ＝自分にできることと考えることが大事だと思った。
- ・似ている人はいるけど同じ人はいないことや人生に100点も0点もないということを聞き、自分だけできることを探してみようと思った。
- ・いじめはダメ！他人の良いところをたくさん見つける。人は傷つけてはいけない。
- ・「自分だけ・・・。」と暗い考え方でなく、「自分にしかできないことだ！」という考え方がすごいと思った。
- ・ボボさんからやっぱりいじめはダメなことを教わつた。
- ・金子さんは、私たちと少し違う見え方で過ごしているけど、だからといって避けたり差別するのは違うと思った。個性を一人一人大切に、人生100点の人でも0点の人もないから、差別などがなくなっていけば良いと思った。改めて、差別や偏見はいけないことだと思った。
- ・自分に自信があまりなかったので、話を聞いて励まされ少し自信をもてるようになりました。
- ・何事にもあきらめないことが大切だと感じた。
- ・自分に自信があつて自分を認められることがすごいと思った。自分らしく生きて、100点の人でも0点の人もないというのがすごい心に残った。

相川中人権強調旬間として11/9(月)～27日(金)の期間、一人ひとりが、「差別や偏見、いじめ、そして命」について考えてほしいと思います。昨年度作成した「相川中いじめ見逃しゼロ宣言」をもう一度確認し、ひとりひとりが生活してほしいと思います。

【相川中いじめ見逃しゼロ宣言】(令和元年度、全校生徒の意見から作成したものです。)

- ① 私たちは、いじめや差別を絶対にしない・許さない心もちます。
- ② 私たちは、自分と相手のちがいを受け入れ、相手の良いところを見ます。
- ③ 私たちは、悪口や暴言などのマイナスな発言をやめ、「いいね」や「ありがとう」などのプラスの言葉を使います。
- ④ 私たちは、周りに流されず、自分がダメだと思ったことはしません。